

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2019年10月号」

空の鳥をよく見なさい。種も時かず、刈り入れもせず、倉に収めもしない。
だが、あなたがたの天の父は、鳥を養ってくださる。マタイによる福音書 6章 26節

10月に入りました。今年は8月下旬に涼しくなったかと思うと、9月には猛暑がぶり返し残暑が続きました。季節が、まるであちこちにぶつかりながらぎくしゃく進むような変わり方をするようになってきた気がします。秋分の日3連休には台風17号が襲来しましたが、皆さまのお宅では被害はなかったのでしょうか。我が家は坂を登りきった場所にあるので、これまでも台風のとときには風がまともにあたることもありましたが、今回は特別でした。幸い被害はなかったものの、家が揺れ、屋根が飛ばされるのではないかと一瞬恐怖を感じることもさえありました。自然の猛威の前には人間は無力であること、だからこそ自然の営みを乱すことのないよう謙虚さを忘れないようにすることの大切さを改めて感じました。

10月には、スポーツフェスティバルが行われます。毎年子どもたちが話し合ってスローガンを掲げていますが、今年は「限界突破～本当の勝利に向かって」に決まりました。この言葉には「一人ひとりが協力しあい全力を出す」「自分を超越する」「勝ち負けではなく、自分のめあてに向かって頑張りぬく」という思いが込められています。スポーツにおいて勝利は目標ではあっても、目的ではありません。練習、本番を通して子どもたちが心身ともに大きく成長することを願っています。

ところで、少し前2022年に福岡市博多区の青果市場跡地再開発事業の複合施設にキッズニアがオープンするとのニュースが流れました。キッズニアとは子ども向けの職業体験施設でなかなか本格的な内容だそうですが、子どもが将来の夢を描くことは大事なことだと思います。小学生が将来なりたい職業は、男子1位サッカー選手、2位野球選手、3位学者・博士 女子は1位食べ物屋さん、2位保育園・幼稚園の先生、3位看護師（第一生命調べ）だそうです。2～30年前と比べてもそう変わっていないような気がします。別の調査では男子の10位以内にYouTuberがランクインしているのが、時代の変化を感じさせます。ちなみに、ベネッセが実施した高校生対象の調査（男女混合）では、1位は地方公務員とぐっと現実（堅実？）的になっていますが、こちらも8位にゲームクリエイターという以前はなかった登場しています。近頃では、いろいろなメディアでも「20年あるいは30年後になくなる職業」「今の子どもたちの多くは、今はまだない職業につくだろう」などといった予想が報じられているようです。そのベースにあるのは以前にもご紹介した人工知能の発達です。実際にどうなるかは分かりませんが、今の子どもたちが職業を選ぶにあたっては私たち大人が経験したことのない課題に直面することになるのかもしれない。

「溝堀りになるなら、世界一の溝堀りになれ」これは、随分以前に出あった言葉ですが、確かケネディ家の家訓だと思っています。親として、子どもには安定し収入や社会的地位にも恵まれた職業についてほしいと願うのは自然なことだと思います。ただ、そのように何をして生きていくかということと同時に、いかに生きていくかも大切であることを忘れてはならないということ、この言葉は示唆しているように思います。

子どもたちは一人ひとり違う賜物を与えられています。それは必ずしも親が願望望むものであるとは限りません。時代がどのように変わったとしても、自分に与えられた賜物（タラント）に気づき、感謝してそれを精一杯に活かすことができるようにすること、それが私たち大人の使命ではないでしょうか。

文責 宮崎 隆一